

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通／2階、3階ユニット)

事業所番号	2773301797		
法人名	医療法人 山紀会		
事業所名	医療法人 山紀会 グループホーム華		
所在地	大阪市西成区千本南1丁目23番28号		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和5年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今、現在のコロナ禍において、今まで出来ていた外出や面会等の日常が大きく変わっていく中、ホーム内で出来る事を、職員で考え、体操やおやつレク等に力を入れ、又、感染防止の為の消毒や、広報誌等でご家族にご利用者の現状やホームの取り組みを伝え、少しでも安心して頂けるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、西成区内を主に市内で病院や高齢者施設を運営する医療法人が、平成17年に訪問介護事業所、ケアプランセンター、地域密着型通所介護事業所を併設し開設した複合型介護施設の2階と3階で運営されている。建屋は、幹線道路から入った事務所、商店、マンションが混在する地区の公園の前に位置し、鉄筋コンクリート造り5階建ての頑丈で災害に安心な建屋である。管理者は、系列の老人保健施設に入職後、開設間もない当事業所に異動し現在に至り、認知症介護の経験が豊富である。管理者がケアで一番大切にしていることは利用者を普通の人として向き合い、笑顔で接することであると明言し、その思いを職員にも常に伝え、支援が行われているのでフロア内での利用者の笑顔で穏やかな表情の姿を広報誌やパンフレットの写真の中に確認ができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】			

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は少しでもホームで過ごせるように、ご自身で出来る事をしてもらいながら、一緒に生活している	事業所の理念は、開設時に利用者、家族、職員の笑顔のために四つの思いを込めて定めている。この理念を職員が日常的に意識できるように各フロアに掲示し、職員は利用者の笑顔があふれる明るい家庭的な雰囲気作りに努めて支援を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に入会し、公園掃除等には参加しているが、現在、コロナ禍である為、行事には参加出来ていない	事業所は、開設時より地区町会に加入している。隣接する公園の定期清掃に職員と利用者が参加し、地区の人びとと交流をしている。コロナ禍以前は町会主催の花見会に参加したり、地区の祭りが近隣の公園であれば利用者は職員が付き添って出かけたりしていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	クラスター等の影響もあり運営推進会議の開催が出来ていないことがある			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍で、会議を開くことが出来ていないが、書面にて報告や、公園掃除等の町会の行事等で話したりしている	今年度の運営推進会議もコロナ禍が継続中のため、対面開催でなく書面開催として奇数月に、地域包括支援センターと地区町会会長に施設状況報告書として送付しているが、報告内容にはボリュームがなく、具体性に乏しい。	運営推進会議は本来、家族や利用者や知見者の参加が求められているので、今後、書面開催であるならば家族や知見者にも送付すると共に全員から意見・提案を求めること、また対面開催であれば参加案内をすると共に事後に家族全員に議事録を送付することを望む。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所のケースワーカーにご入居者様の事で相談等を行っている	管理者は、利用者の半数以上が生活保護受給者であり、また身寄りのない方や家族と音信不通の方も多く、区の保健福祉課生活保護担当者と常に相談等をして連携を取り、利用者の生活支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針をフロアに掲示し、玄関のドアはカギをかけず、身体拘束をしない環境づくりを心掛けている	事業所では、身体拘束適正化指針を整備し、虐待防止と併せた委員会を3か月に一度開催し、職員にはコロナ禍のため研修を书面回覧で実施し、周知徹底を図っている。コロナ禍以前は、毎月のグループホーム会議の中で研修を行っていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いなどを含め、虐待に繋がるような事がないように職員間でも報告・注意している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人やあんしんさぼーと等の制度を利用しながら、職員にも理解を深めてもらっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や介護保険制度の改定があった時など、その都度説明をし理解頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等でご家族と話す機会を作り、その都度、ご意見等を伺い、反映させるように務めている	コロナ禍の中、家族面会を中止していたが家族からの面会の強い要望があり、この秋は隣接する公園内での面会を行ってきたが、冬季の今は館内で感染対策を取り、行っている。家族からは、外食に連れていきたいとの要望もあるが現在は禁止し時期を待ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われているGH会議時や、適時、職員からの提案や意見を聞き、反映させるように努めている	毎月、グループホーム会議を開催しているが、コロナ禍で短縮して実施している。利用者のケア支援の方法や日々の様子について意見を交換しながら利用者のカンファレンスを兼ねて話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・賞与毎に自己評価・上司評価を行い、目標なども定め、各自の向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は、コロナ禍で、外部の研修には殆どいけないが、今後は出来る限り、外部の研修に参加出来るようにしていきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、コロナ禍で殆ど交流を持てていないが、今後の状況に応じて、交流会等に参加していきたい		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、事前に面会や要望を聞く機会を作り、見学にも来て頂いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご本人様との面会や要望を聞く際、また見学時等に同席頂き、一緒に話を聞いたりしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの生活で何に重点をおいて、生活して頂くかを聞いた上で対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご入居様という関係性を保ちつつ、一緒に生活している家族という意識を持って、日々を過ごす様に心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活を出来る限り報告し、今後の事なども相談し、ご入居者様を支えていけるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍で、あまり外出出来ていないが、少しずつ、以前のような馴染みの場所や店に出かけられる様に取り組んでいる	コロナ禍では隣接の公園には日常的に散歩に出たりしている以外、ドラッグストアなど馴染みの場所には外出支援をできていない。女性利用者の強い要望で近くの美容院に毛染めのために連れて行ったことはある。友人・知人との電話連絡の支援を大切に、事態の緩和を待っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士が交流したり、共同で何か作業などが出来るように職員が仲介し、関わるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去された方のご家族様等には、何かあればご相談頂くようにお伝えし、相談等があった際には対応・支援させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話等で、ご入居様の希望や意向を聞き取り、出来る限り、対応できる様に努めている	管理者は、入所前に本人の思いや家族の意向を確認している。独居の方や身寄りのない方には、担当の居宅介護支援専門員、通っていたデイサービス担当者、生活保護担当者等に、これまでの生活状況を確認している。入所後は、支援の中の会話や表情から意向を把握している。把握が困難な場合は家族の意向に沿うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面会時やご入居されてからの関りで聞き取り、把握・反映に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の状態を申し送りや職員同士で情報交換・共有し、会議等でも話し合う様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での情報共有に加え、御家族・主治医等からも意見を頂き、計画作成に反映させている	計画作成担当者は、毎月のグループホーム会議の中でのカンファレンス、利用者の日々の様子、介護記録、申し送りノート等を確認して3か月ごとにモニタリングをし、医者の方の見、看護記録等を総合的に勘案して6か月ごとにアセスメントを行い、家族の要望を踏まえて短期は3か月、長期は6か月の介護計画を立てている。利用者の状態に変化があればその都度計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過や評価等を考慮し、計画作成の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリの希望があれば、近隣の病院に通ったり、毛染めを希望されたら、ホームで染めたり、美容院へ通ったりとその都度、対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園の花壇の世話をデイサービスの方と一緒にさせてもらったりを継続している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居される以前に見て頂いていたかかりつけ医の往診や受診が継続出来るように支援している	設立法人の病院を協力医とし、メリット、デメリットを入所前に説明し希望を聞き選んでもらっている。現在は6～7人が協力医、その他は従来からの医師の訪問診療を受けている。外部の医療機関に通院する必要がある場合は事業所が同行している。母体の病院とは直接連絡をとれるので利用者、家族、職員の安心感が強い。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、外部の訪問看護ステーションの訪問を受け、状態確認や異常の早期発見、情報共有に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	適時、病院の相談員や看護師に連絡し、現状や早期退院に繋がるように情報共有に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針などの説明や方針についての書面にサインを頂き、また状態に変化があった場合等は都度相談させて頂いている	医師が見取り期に入ったと判断した時点で、家族、医療、事業所とカンファレンスをもち、今後の方針を相談している。重度化してもできる限り事業所で介護する方針だが、病院が母体であるので入院を希望する利用者が多く、最期は病院で迎えるケースが多い。見取り体制は整っているが実例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや研修にて、適時、確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や非常時のマニュアルなどを策定し、対応している	本年度は自主訓練を2回(1回は夜間想定)行った。津波の危険性が高い地域だが、建物は5階建てなので、垂直避難を想定している。自治会長とは過去の運営推進会議で火災発生時の避難見守り協力などについて協議した経緯があり、公園清掃などで地域ともなじみの関係があるので有事の際の助け合いができると管理者は考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の権利を守るという掲示をしたり、適時、会議等でも議題として挙げ、確認している	日頃から、親しい言葉遣いをしているが、馴れ馴れしくなりすぎないように、乱暴な言葉にならないように注意している。入所時に広報誌の顔出し写真や個室の名札の有無は確認している。夜間に個室のカギをかけて休む利用者もあるが、尊重している。年1回の人権研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、ご入居者様の意思や希望を尊重出来る様に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、時間で決めるのではなく、その時々状況やご入居者様の希望に沿って対応するように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や乳液の希望される方には使って頂いたり、髭剃りなども入浴時にして頂いたり、衣服も以前来ていたものを持ってきて頂いたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作成する際に、希望を聞いたり、調理やおやつレク等で一緒に作ったりしている	週4回の昼、夜は業者から届く調理済み食品を使用、朝食と週3回は事業所で献立、買い出し、調理を行っている。その際は利用者に希望を聞き、「王将の餃子」「吉野家の牛丼」などができれば、買ってきたり、似たものを作ったりしている。今は一緒に買い物はいけませんが、調理は利用者もできることで一緒にして楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎食事毎にチェックし、その方に応じて、キザミやミキサーなども使用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに加え、歯科医からの口腔ケアについて、指導や指示を頂いて対応している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンシートの活用や会議等で、適時、排泄についての見直しや支援について共有している	できるだけトイレでの排泄を支援しており、現在日中は全員が(2人介助の人も)トイレを使用している。夜間は安眠を重視し、状況に応じてトイレ誘導したり、ベッド上で交換したり個別に対応している。個室内にトイレがあるので、プライバシー上の問題はない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指示のもと、下剤の調整を行い、又、飲むヨーグルトを飲んで頂いたり、腹部マッサージなども適時行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の状況や、希望に応じて入浴して頂き、入浴剤の使用やゆず湯等の時期に合わせた入浴もお行っている	入浴は曜日を固定せず個人の希望に合わせてまたは必要に合わせて実施しており、2、3日に一度の入浴になるようにしている。浴室は一般的な浴槽で手すりや、シャワーチェア、キャリを使い、重度者は二人で介助して全員が浴槽に就いてゆったりとした入浴を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前に足浴を行ったり、塗り絵等をして、落ち着いて入眠できる様に取り組んでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服表をファイルを作成し、閲覧できるようにし、排泄関する事や頓服の内服時はカルテにも記載している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が、より充実したホームでの生活が過ごせるように、散歩や日々の役割などを持てるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍で外出が出来ていないが、母の日や父の日、誕生日等には外食や遠方への外出を行っていた	現在、コロナ禍のため遠方への外出支援はできていないが、日頃は隣接の公園や近隣への散歩の支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、あんしんさぼーとや後見人・ご家族に協力を頂きながら、小口現金については、全員ではないが、ご本人でも管理して頂き、日々、必要なものや希望するもの等は適時購入したり、して頂いたりしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や知人に電話をかけて頂いたり、かかってきた電話を繋いだり、ご兄弟からのお手紙をお渡ししたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	余暇時間に職員と一緒に作った製作物を飾ったり、歌を流したりして居心地の良い空間づくりに努めている	居間兼食堂は、できるだけ明るい雰囲気になるように心がけ、季節の作品や花を飾っている。食卓のほかにテレビとソファがあり、気の合った同志がおしゃべりしてくつろいでいる。エレベーターホールへは自由にでられ、外の風景をみて気分転換ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどと一緒に座って頂いたり、食事時以外は座る場所を決めず、その時々ですわってもらったりし、ご入居者様同士で過ごしやすいようにして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は出来る限り、自宅から持ってきていただいた物を置くようにしている	トイレ、洗面台、クローゼット付きの居室で、なじみの品の持ち込みを依頼しているので、仏壇、遺骨、DVDプレーヤー、タンス、写真アルバムなどの持ち込みがある。部屋の訪問は原則自由なので、仲良しは行き来して交流している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やフロアでの動線の確保や出来る限り、自身で出来る事は自身で行って頂けるような環境作りを行っている		